

第2回横浜市瀬谷スポーツセンター指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和8年8月6日(木) 9時10分～11時40分
開 催 場 所	瀬谷区役所5階大会議室
出 席 者	選定委員：佐野委員長、廣瀬委員、渡邊委員、安田委員、須藤委員（計5人） 事務局5人
開 催 形 態	一部非公開（議題1、3及び4） ※面接審査のみ傍聴可（応募団体の関係者は、自身が所属する団体の面接審査のみ傍聴可）（傍聴者5人）
議 題	1 審査について 2 面接審査（応募団体のプレゼンテーション・質疑応答） 3 最終審査・採点 4 結果報告
決 定 事 項	1 横浜市瀬谷スポーツセンター指定候補者に「公益財団法人横浜市スポーツ協会」、次点候補者に「横浜FC・シンコースポーツ・相鉄企業共同事業体」と決定。
議 事	選定委員5人中5人出席。定足数を満たしているため、本委員会は成立。 会議の公開・非公開については、面接審査のみ傍聴可能とするとともに、応募団体間の公平性を確保するため、応募団体の関係者は、自身が所属する団体の面接審査のみ傍聴可能とすることを確認。 1 審査について (1) 審査方法 事務局から審査方法を説明。また、市税の滞納がないこと、暴力団又は暴力団経営支配法人等にも該当せず、資格要件を満たしていることを報告。 (2) 応募団体の財務状況 廣瀬委員から、団体Aの財務状況及び経営状況について、施設運営に支障がないことを説明。団体Bの財務状況及び経営状況について、代表団体が恒常的な赤字となっているが、その他構成団体2社の財政状況は問題ないため、共同事業体として施設運営に支障がないことを説明。 2 面接審査 (1) 団体A ア プレゼンテーション イ 質疑応答 (委員) 瀬谷スポーツセンターの指定管理を長年担ってきたと思うが、団体の弱みはどんなところか。 (団体) 時代が大きく変化している中で、当団体のみでは対応できない事案が増えている。特に施設の老朽化が進行する中で、施設のメンテナンスについては、当団体では対応できないため、プロフェッショナルな協力企業に担っていただき、補完をしていきたいと考えている。また、利用者のニーズも多様化してきているため、プロチームと連携し、新たなニーズ

	に応えるとともに、地域を活性化するためにも力を借りたいと考えている。 (委員) 駐輪場の表示が明確にされていないため、自転車が雑然と駐輪されている現状があるがどのように改善していくか。また、夜間に若者がたむろしていることがあるが、どう対策するか。 (団体) 駐輪場の課題に対しては、施設の入口付近に「自転車を整理して停めて欲しい」旨の案内表示の設置や自転車区画の線を引くなどの取組を行ってきた。しかし、一度引いた線が消えかかっているため、線を引き直したいと考えている。また、自転車で来られる方が多い時間帯は、職員の巡回による整理を実施するなど取組を強化していきたいと考えている。夜間の対策については、入口付近にスポットライトを設置した。問題が起きそうな場合は、瀬谷警察とも連携して、情報提供しながら対応していきたいと考えている。 (委員) 夜間の対策については、地域の安全性にも関わってくるので、例えば、敷地の中に入れないようにする等しっかり対策をしてほしい。また、駐車場が2か所あるが、第1駐車場の場所を知らないという方が意外といえるので、もう少し目立つような表示をしてほしい。 (委員) 送迎等で路上駐車している車が多く、目の前の道路が通りづらくなっているため対策をしてほしい。 (団体) 路上駐車については、現在も施設職員が少しの時間でも路上駐車しないように利用者に直接声をかけるとともに、警察と連携して対策しており、引き続き取り組んでいく。 (委員) 財務資料の中に、中期計画達成状況という資料があり、スポーツイベントや教室の拡大といった事業の根幹をなす部分で目標未達になっているものもあるが、どう考えているか。 (団体) スポーツ振興を行う会場の拡大という目標については、当団体の組織全体で取り組むものとして3年前に初めて目標を立てた。第5期の提案で、地域連携を100件実施するとの目標を立てたが、これは、必ず100件以上地域連携の事業を実施するという決意である。具体的にはスポーツセンターの中だけでなく、アウトリーチによる運動指導や地域と連携した健康プログラムの導入、にぎわいづくりのためのイベント等を積極的にスポーツセンターからも発信して、目標達成に向けて進めていきたいと考えている。 (委員) 目標達成に関して、施設利用者数が目標に対して未達の年度もあるが、今後、利用者数をどのように増加させていく見通しか。 (団体) 個人利用の増加・拡大を図る。トレーニング室の利用については、まだまだ増やしていけると考えている。あわせて、これまでスポーツセンターを利用したことのない地域の方に利用していただけるよう、ニュースポーツの導入を検討している。また、スポーツ教室において、充足率が高くない教室があるため、広報・周知を充実させるとともに、女性や子どもを対象とした教室を重点的に行い、目標達成に努めていく。
--	---

	(委員) トレーニング室のサブスクリプション導入もその一環か。 (団体) そのとおり。 (委員) ラジオ体操等、シニア向けの事業を開催しているとのことだが、広報が足りていないのではないか。利用者の増加を目指すとのことだが、地元住民が率先して利用しない限り、増やすことは難しいと思う。高齢者の多い地域なので、周知方法をしっかり考えてもらいたい。 (団体) これまでもご協力をいただいているが、地元の回覧等も活用して十分に展開していきたいと考えている。また、ラジオ体操だけでも参加いただけるような地域との関係性を構築していきたいと考えているので、今後周知・PRを強化していく。 (委員) 現在はどのように周知しているか。 (団体) ホームページへの掲載やチラシの配布、区内の公共施設へのチラシ配架をしている。区内の公共施設とは、お互い連携して配架・周知に協力いただいている。また、施設近隣の町内会には、既に回覧板や掲示板での周知にご協力いただいているが、エリアを拡大して進めていきたいと考えている。 (委員) 地域の高齢者がホームページを見るというのは難しいと思う。ポスター等を掲示するなど、高齢者にもわかりやすい周知を徹底してほしい。 (委員) 近年の物価高の影響を受けていると思うが、その対応についてどのように考えているか。 (団体) 個人利用やスポーツ教室の利用者数増加によって収入を上げることで、収益を確保し、昨今の物価高に対応していきたいと考えている。 (委員) 現時点で、料金の値上げは検討しているか。 (団体) 値上げの予定はない。 (委員) 館内のリニューアルについて、指定管理料の範囲内で実施する予定か。 (団体) 指定管理料及び収益を還元してリニューアル等を行う。修繕費用については、毎年予算を計上し、計画的に修繕を実施していくが、緊急修繕が必要となり予算を超える可能性もある。その際もできる限り収益の中で対応できればと考えている。 (委員) 高齢者が多い地域とのことで、高齢者は負荷の高いトレーニング機器をあまり利用しないと思うが、今後、現在と同じような設備を継続していくか、あるいは、トレーニング機器の交換が必要になったタイミングで、負荷の軽い機器を導入するなど徐々に変えてくのか。 (団体) トレーニング室の機器は、現在でも高齢者向けの機器を設置している。日々情報収集を行って、良い機器があれば導入していきたいと考えている。 (委員) 朝一番で施設に行くと、受付で人が結構並んでしまっていることがあるが、対策を考えているか。 (団体) 人気のある教室のワンデイレッスンに参加される方と個人利用の方とで列ができてしまっている。現在、個人利用の方の列を分けて対応しているが、特にオープン時には列が入口付近まで伸びてしまうため、入口付
--	--

	近とは別のところに列を作るといった工夫をしていきたいと考えている。 (2) 団体B ア プレゼンテーション イ 質疑応答 (委員) 3社の共同事業体として運営をするということだが、各団体の強みと弱みはなにか。横の連携はスムーズにできるのか。 (団体) 3社による共同事業体は初めてのものではなく、他区のスポーツセンターで5年間実績を積んできたグループである。その過程で、役割分担を明確化し、足りない部分は積み上げてきた。まず強みの部分では、代表団体Aはプロスポーツクラブであり、そのブランド力を活用して地域連携推進の中心を担う。構成団体Bは指定管理業務の実績が豊富であり、基本的には運営統括という立場で、受付やトレーニング室のスタッフを配置し、運營業務全般を担う。構成団体Cは、設備の点検から清掃といった維持管理業務を担う。各団体の専門分野を強みとしている。弱みというか、これからの話になるが、まずは、お客様に我々のことを知っていただく必要がある。また、指定管理者が変わることでお客様に迷惑が掛からないよう、スムーズに運営を移行していくということに細心の注意を払っていききたいと考えている。 (委員) 3社による共同事業体での指定管理の実績はどのくらいか。 (団体) 5年前に初めて組成し、1施設を運営している。 (委員) 財務の資料を確認したところ、代表団体Aの収支が3年間赤字だが、継続的に赤字なのか。また、指定管理業務の資金繰りについて、3社でどのようなイメージで臨むのか。 (団体) 代表団体Aは、親会社の強力な資金力のもと様々な事業を展開しており、財務の部分については、毎年Jリーグのクラブライセンスの基準をクリアできている。現在は赤字であるが、収益の改善を図りつつ、黒字化を目指している。指定管理業務においては、独立した会計管理のもとでガバナンスをしっかりと効かせて運用していくため、資金繰りに関する懸念は一切ないと考えている。 (委員) 地域連携について、具体的にどのように連携を取っていくか。また、提案のなかで、キャッシュレス決済の導入やスマートフォンアプリの導入について説明があったが、スマートフォンの操作が苦手な高齢者も多い地区であるが、どう考えているか。 (団体) キャッシュレス決済やアプリの導入は、付加価値であって、基本的には現金払いを継続していくので、ご安心いただきたい。地域との連携について、まず最初に大事なことはご挨拶に伺って、当団体のことを覚えていただき、地域の皆様に喜ばれる事業をやっていくことで、一日でも早く地域の一員となることだと考えている。そのために、現在も運営されている喫茶スペースは継続して委託をするとともに、お祭りや清掃活動への参加、夜間警備などの活動を協力しながら一緒にやっていきたいと
--	--

	考えている。 (委員) 夜間に施設の外で若者がたむろしていることがあるが、どのように対策していくか。 (団体) まずは、施設スタッフによる巡回が必要であると思う。必要に応じて瀬谷警察にも相談しながら取り組んでいく。また、近隣に当団体が管理する拠点があるので24時間体制でバックアップ体制を敷いて対応していきたいと考えている。 (委員) 物販では具体的に何を販売する予定か。 (団体) 基本的にはスポーツウェアやシューズといったスポーツ用品全般やサプリメント、プロテインといった栄養補助食品の販売を検討している。他の施設では、プロスポーツクラブのグッズやアイス、野菜、焼き芋、お菓子等の販売実績がある。野菜の販売については、地元農家の方々と連携して、朝市を開いて販売する取組も実施している。 (委員) 広報の仕方については、どう考えているか。 (団体) 現状を分析する中で、区の広報紙で情報収集している区民が多くいることが分かったため、区の広報紙を活用したいと思っている。また、ホームページやSNSを活用して情報発信する一方で、高齢者の多い地域ということも伺ったので、チラシの掲示等も実施し、様々な角度から情報発信をしていきたいと考えている。 (委員) 提案書の中で駐車場料金の値上げについて記載があるが、その必然性を説明してほしい。 (団体) トレーニング室のリニューアルやサービス向上に向けた取組を提案したが、サービスを提供していくうえで、原資となる収入源の確保が必要であると考えている。近隣駐車場との価格比較も行い、スポーツセンター条例の上限内で値上げを実施する。収入を確保し、それを施設利用者にサービスとして還元していくことが指定管理者に求められていることと考えている。一方で、現時点ではあくまで提案という形のため、瀬谷区役所や利用者の方々との合意形成を経て実施していくものと認識している。 (委員) トレーニング室の大幅リニューアルについての提案があったが、機器が変わることにより、現在の利用者の利便性が低下する懸念があるが、どう考えているか。 (団体) 機器の基本的な機能は大きく変わらないようにしたいと思っている。一方で、取り扱える重量の幅を広げる等、1つの機器で様々な使い方ができるような機器を選定し、様々な目的・年齢層・体力レベルに合わせてトレーニングを楽しんでいただけるようにしたいと考えている。 (委員) 現在の利用者が新しい機器の使用方法がわからないなど戸惑わないか。 (団体) トレーニング室には、運動指導の資格を持った人員を多く配置し、しっかりと新しい機器の説明をしていくことで、戸惑いなくご利用いただけるよう努めていく。 (委員) トレーニング室の機器のリニューアルは、駐車場の値上げを前提とする
--	--

	のではなく、現状の指定管理料の中で行うという考えはあるか。 (団体) 指定管理料の中でできることもあるが、様々なサービスの向上を図っていく上で、更なる収入の確保が必要だと考えている。 (委員) 駐車場料金の値上げという提案があったが、周辺にはコインパーキングが少なく、スポーツセンターの駐車場を利用している方も多く、値上げによって、路上駐車が増えてしまう懸念がある。地元とも話し合いをして慎重に検討してほしい。 (団体) 路上駐車が起きないように、しっかりと見回りを強化する。駐車場料金の値上げについては、その必要性を地元の方々にご理解いただくことが必要と考えているため、しっかりとコミュニケーションを取りながら進めていく。 3 審査結果について 審査結果は、団体Aが582点となり、「公益財団法人横浜市スポーツ協会」を指定候補者とすることを決定。団体Bが553点となり、「横浜F C・シンコースポーツ・相鉄企業共同事業体」を次点候補者とすることを決定。 (講評) 団体A ・これまでの実績に裏付けられた実現可能性の高い提案となっていた。 ・地元に密着した運営を今後も続けていこうとしている点を評価した。 ・これまでも問題なくやってきており、これからの運営も期待している。 ・自分たちで設定した目標を一部達成できていなかったが、その課題を改善しようとしている姿勢を評価した。 ・区民一人ひとりに寄り添った提案がされている感じがした。多様な区民のニーズに寄り添ってやってもらえるといいと思う。 ・近隣住民への配慮を含め、地域に密着した区民に身近な施設となることを期待したい。 団体B ・プレゼンテーションにインパクトがあり、提案内容も素晴らしかった。 ・地域密着というよりは、企業的な視点が多く、地域の特性を考えると、運営の方向性が違うように感じた。 ・施設リニューアルの財源について、料金の値上げを前提に考えている印象を受け、評価を下げた。 ・多様な区民ニーズに寄り添うような提案があれば、もう少し点数が高くなったと思う。
資 料 ・ 特 記 事 項	1 資料 (1) 審査に関する確認事項